

インターゼミ・地域班

ソーシャルキャピタルから紐解く 持続可能な地域社会 ～若者が考える豊かな地域とは～

(学部生)	竹之内、中島、村松、吉田、柳沢、
(院生・修了生)	高村、川合、葛生
(指導教員)	野坂、後藤、木村

本日の報告内容

1. 研究背景と研究目的
2. 研究対象
3. 研究方法
4. フィールドワークの予定
5. 今後のスケジュール
6. 文献リスト

ソーシャル・キャピタルとは

◆ ソーシャルキャピタル（以下、SC）とは、「人々の中の協調的な行動を促す「信頼」、「互酬性の規範（お互い様・持ちつ持たれつ）」「ネットワーク（絆）」のことであり、日本語では**社会関係資本**と呼ぶ（稲葉，2011）。

- 簡単に言えば、「**人とのつながり**」であり、人々の関係の強さ・弱さを示すものであり、地域社会の安定に大きな影響を持つ。

→ SCは、社会全体にとっていつもプラスになるとは限らず、負のSCが生まれることがある。（稲葉，2011）。

例）田舎の排他的なコミュニティ

1. 研究の背景

- ◆ 大都市圏への一極集中が進む一方で、地方では人を呼び込み、定住するための方策が必要不可欠であり、いかにして地方に若者を呼び込むかということが一つの課題となっている。
- ◆ 2018年6月15日の政府の臨時閣議において、**東京圏から地方への若者の移住を促すため、転職や起業をした人向けの支援金を新設し**、2024年度までに地方での就労を30万人を増やす方針が打ち出された。

1. 研究の目的

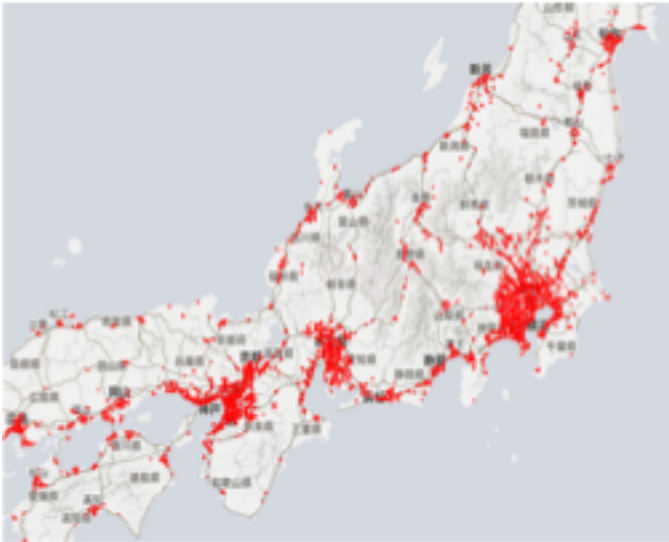
- ◆ 若者の地域移動の動機を明らかにする上では、**ソーシャル・キャピタル(人との繋がり)**という概念がカギとなる。
- ◆ 本研究では、「若者が地域コミュニティに求めているもの」と「**地域にあるソーシャルキャピタル**」という2つの観点から研究を行い、**持続可能な地域社会形成の要因**を明らかにする。
- ◆ 複数の地域を調査することで、**地域特性(立地や周辺環境)の影響**について比較分析を行う。

2. 研究対象

- ◆ 地方へ移住する若者
- ◆ 生まれ故郷である地方に住み続ける若者
- ◆ 地方に定住する高齢者

→世代間ソーシャルキャピタルを醸成するための仕組みを明らかにする。

(本研究のイメージ)



血縁？地縁？社縁？

<リサーチ・クエスト>

- ◆ 地元志向・移住する若者は、それぞれどのような「人とのつながり」（ネットワーク・コミュニティ）を持っているのか？or 求めているのか？
- ◆ 受け入れる側の地域にはどのようなソーシャルキャピタルがあるのだろうか？
- ◆ それらの「人とのつながり」（=SC）が、人の幸福や豊かさに影響を与えているのか？
- ◆ 高齢化が進む地方において、どのような高齢者と若者の世代間のSCが求められているのか？

3. 研究方法

◆ 文献調査

- ・ ソーシャル・キャピタルの概念や測定方法
- ・ 若者の地方移住に関する先行研究

◆ 定量的調査

- ・ 生活への満足度、幸福度等について、インターネット調査により明らかにする。

3. 研究方法

◆ インタビュー調査

- 若者・高齢者を対象に、移住（Iターン、Uターン含む）・定住の動機、人とのつながり等を明らかにする。
- 若者を対象に、仕事をどのように見つけているのか、キャリアパス等を明らかにする。
 - 雇用タイプ
 - 起業タイプ

例：地域おこし協力隊ののちに起業など

4. フィールドワークの予定(仮)

◆ 若者の移住が増加している地域や世代間交流（若者・高齢者）がうまく行っている地域

◆ 山形県東根市

- ・ 充実した子育て支援により移住者が増えている。
- ・ H22年～H27年の間に約4%人口増

◆ 島根県邑南町

- ・ 子育て支援、H13～H25の間に人口増
- ・ 生活満足度が高い。84.1%（全国平均64.1%）

4. フィールドワークの予定(仮)

◆ 徳島県神山町etc.

- ・ 徳島県全体のIT従事者移住増（サテライトオフィス）
H28年：842人増

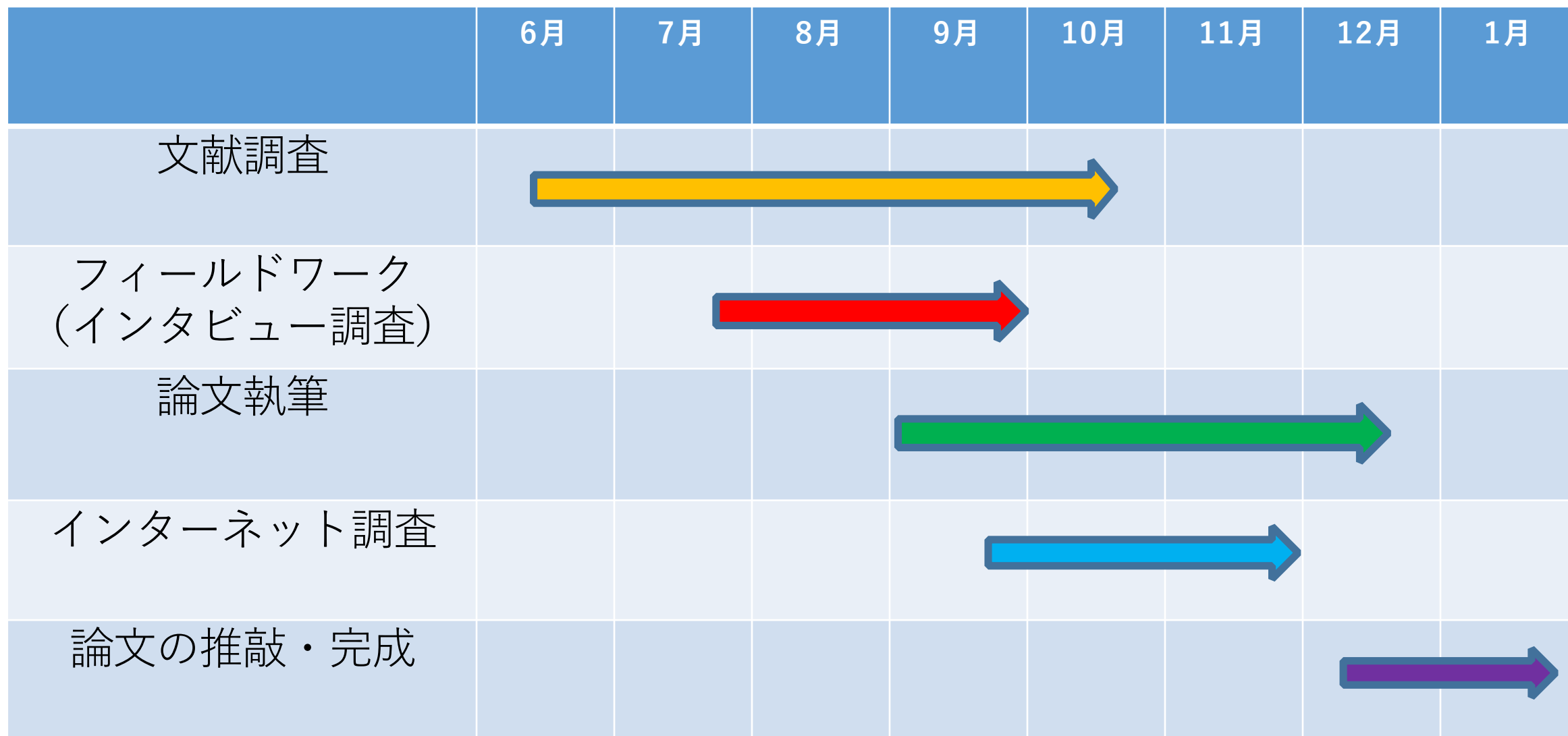
◆ 北海道東川町

- ・ 20年間で移住者は1000人増。

◆ 東京都有楽町ふるさと回帰センター

- ・ 各自治体のブースにおける移住相談、移住フェアの開催)

5. 今後のスケジュール



6. 文献リスト

<書籍・論文>

池田弘(2017)『地方イノベーション 強い地方こそが日本の明日を創る』 日経BP社

石井まこと 他8名(2017)『地方に生きる若者たち インタビューからみえてくる仕事・結婚・暮らしの未来』 旬報社

稲葉陽二 吉野諒三(2016)『ソーシャル・キャピタルの世界: 学術的有効性・政策的含意と統計・解析手法の検証』 ミネルヴァ書房

大江 正章(2015)『地域に希望あり——まち・人・仕事を創る』 岩波新書

笥裕介(2011)『地域を変えるデザイン——コミュニティが元気になる30のアイデア』 英治出版

金子淳(2017)『ニュータウンの社会史』 青弓社

株式会社日本政策投資銀行地域企画チーム(2004)『実践！地域再生の経営戦略—全国36のケースに学ぶ”地域経営”』

官庁通信社(2018)「自治体戦略2040構想研究会 第一次報告

～人口減少下において満足度の高い人生と人間を尊重する社会をどう構築するか～」『行政評価情報』(3148):2018.5.10 p.2-5

轡田 竜蔵(2017)『地方暮らしの幸福と若者』 勁草書房

篠原雅武生(2015)『いきられたニュータウン—未来空間の哲学—』 青土社

竹内 裕二(2018)『地域メンテナンス論—不確実な時代のコミュニティ現場からの動き—』 晃洋書房

堤研二(2011)『人口減少・高齢化と生活環境—山間地域とソーシャル・キャピタルの事例に学ぶ』 九州大学出版会

寺島実郎(2018)『全47都道府県幸福度ランキング2018年版』 東洋経済新報社

寺本亮太 他4名(2012)「オールドニュータウン救済計画：陸の孤島化に先手を打つ」『熊本大学政策研究 3, 93-104』

6. 文献リスト

- 若者の地域間移動-長期的動向とマッチングの変化- 独立行政法人 労働政策研究・研修機構
ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化 滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所共同研究(2016)
地域活動のメカニズムと活性化に関する研究会報告書 内閣府経済社会総合研究所 研究会報告書等 No.75
日経コンストラクション(2018)「自動運転 道の駅を拠点に実験(特集 2018年を読む20語:新たな制度・技術、大型事業の行方)『日経コンストラクション』2018年1月8日号 47P
埴淵知哉(2018)『社会関係資本の地域分析』 ナカニシヤ出版
林 新二郎(2017)「経営性 都市計画の視点から見た中量軌道システム」山万ユーカリが丘線」(特集 中量軌道システム-まちなかの公共交通)『建設コンサルタンツ協会会誌(通号 252)』2011.7 p.20~23
藻谷 浩介(2013)『里山資本主義— 日本経済は「安心の原理」で動く』 角川oneテーマ21
諸富徹(2018)『人口減少時代の都市 — 成熟型のまちづくりへ』 中公新書
山下 祐介(2014)『地方消滅の罨—「増田レポート」と人口減少社会の正体』 ちくま新書
山口菜乃 他4名(2017)「郊外住宅地の持続可能性を担う域内交通システムの役割に関する研究: ユーカリが丘を事例として」『交通工学研究発表会論文集』

<WEBページ>

- 石井和也(2018)「「地方創生3.0」で、専門分野に強い民間パートナー探しが始まる 日経BP総研 マーケティング戦略ラボ」<
https://consult.nikkeibp.co.jp/industries/atcl/20180511_1/> (参照2018/06/14)

ご清聴いただき、
ありがとうございました。